

文部科学省：私立大学研究ブランディング事業

文部科学省の「私立大学研究ブランディング事業」は、学長のリーダーシップのもと、最優先課題として全学的な独自色を大きく打ち出す研究に取り組む私立大学等に対し、経常費等を重点的に支援する事業です。本学では、「Chuo Vision 2025」で掲げる将来ビジョンのもと、2つのプロジェクトを展開しています。



地球規模での複雑な諸問題の解決に寄与する 専門的かつ学際的な研究の推進

Chuo Vision 2025



<事業期間>
2016年度～2020年度

比較法文化プロジェクト

アジア太平洋地域における法秩序多様性の把握と法の支配確立へ向けたコンバージェンスの研究

プロジェクト代表者
佐藤 信行 教授
中央大学大学院法務研究科 (法科大学院)

経済のグローバル化の加速に伴い、国境を越えるグローバルな活動や事象について、その法基盤の確立が重要な課題となっています。しかし、国民国家概念を中心とする従来型法秩序では、グローバルな事象に対応するには構造的に限界があります。そこで、ビジネス法の領域を中心として、個別の問題への対応を最優先する各論的な対応が広まっていますが、その中にはいずれかの国や地域の法秩序を優越的なものとして、他者に「押しつけ」るものも含まれています。ただ、この方法は、法文化的差異を背景とする混乱を助長し、結果として、ある法域内においては世界秩序を破壊するリスクを内包しており、「押しつけ」ではない別の方法によって、グローバルな事象に対しても「法の支配」に基づく対応を可能にする研究が必要とされています。

本プロジェクトでは、アジア・太平洋地域が、世界最大の経済発展セクターでありながら異なる法文化伝統が認められる地域であることに着目し、この地域の法秩序の多様性を解明し、それらを協調的に併存させ、さらにコンバージェンス（統合し揚）する方法を提言することを目的としています。具体的には、日本、韓国、タイ、シンガポール、香港およびオーストラリアの6法域において、国際取引、データプライバシーおよび紛争処理の3つの課題を設定し、その基本的法秩序との差異を解明し、コンバージェンスの方法を検討します。また、その過程において、各法域における法秩序の多様性を可視化するための基盤として、「比較法事情データベース」を開発し、実務家を含む関係者へ広く公開します。

これらの活動を通じて、アジア・太平洋地域における協調的で安定した法の支配、国境を越えた法交渉において、各国・法域の多様な法秩序や法文化が根底から傷つけられることなく、全当事者が利益を得る方策を見いださる基盤形成を行い、本学が日本・アジア・世界の法情報センターとして貢献することを目指します。

<事業期間>
2017年度～2021年度

災害適応科学プラットフォーム開発プロジェクト

超スマート社会の実現に向けた沿岸都市における防災プラットフォームの開発

プロジェクト代表者
有川 太郎 教授
中央大学理工学部都市環境学科

巨大地震に伴う巨大津波、気候変動による局地的豪雨、巨大台風による高潮など、沿岸の低平地における水災害のリスクは、近年高くなっています。従来の津波対策は、防潮堤や護岸を設置し、浸水を許さず沿岸の背後地域を守る、ということを目指していましたが、2011年の東日本大震災をきっかけに、「沿岸における津波・高潮からの浸水を許さない防護」という方針から「防護施設の越流・破堤を前提とし、避難と合わせた減災」という方針へシフトしてきました。

この方針の転換により、これからは浸水を想定したまちづくりを行う必要があります。また、まちづくりだけでなく、人々の行動も変化していかなければなりません。現段階の技術では、いつ堤防を越えるような浸水が起こるか、越えたときに堤防が倒壊するかどうかなどを確実に予測することができず、住民が避難すべきかどうか判断をしづらい状況にあります。このため、余裕を大きくみた避難計画、体制をとる必要があります。そのためには事態を予測し、住民も早めに避難するという考え方にシフトしていかなくてはなりません。

このように、浸水を前提としたハード・ソフトを一体としたまちづくりの方法・手法は発展途上にあり、行政や住民と話し合いを重ねながら、その手法を確立していくことが重要です。そのためには、全員が同じ土俵の上で検討ができるようなツールが必要となります。

本プロジェクトでは、そのような合意形成ツールの構築を目指し、災害に適応するためのまちづくりに資するプラットフォームの開発を目的としています。具体的には、洪水や津波による浸水、構造物の脆弱性、避難行動、人口予測、および災害に関わる法律などをデータベース化し、それらを自由にかつ便利に利用できるようなプラットフォームを構築します。